

あなたも わたしも 大切な ながさかっこ 聴き合って 話し合って とともに学ぼう !

ながさかっこ



ながさかしょうがっこう 長坂小学校だよりNo.4 2024年6月発行 発行責任者：校長 國分 孝明

例年より遅い梅雨入りとなり、蒸し蒸しとした気候が続いています。小学校では水泳指導が始まり、プールには子どもたちの元気な声が響いています。この時期も熱中症に気を付ける必要があります。プールに入っているから大丈夫ということはありません。体の中の水分は減少しているので、適宜水分と塩分の補給が必要です。いつものお茶にほんの少し塩を入れておくことをおすすめします。プールでの活動は体力も消耗しますので、おうちに帰った後もお子さまの体調管理のほどをよろしく願います。

※裏面には6月2日(日)に行われました運動会について団体演技を中心に書いていますので、お読みください。

~~~~~

## はじめての田植え体験! (5年生)



6月6日(木)大阪市内にある長橋小学校の皆さんと一緒に田植え体験を行いました。事前学習では、種もみから苗ができるまでの工程を勉強し、大切に育てられた苗を植えさせていただけのことを知りました。

まず初めに、田植えでお世話になる中西さんにお話を聞きました。「田植えで大変なことは水の管理です。天候や季節によって水の量を調節しなければいけません。おいしいお米に育ってもらうために、愛情をもって毎日田んぼの様子を欠かさず見に来ています。」とお話をしてくれました。

次に田んぼに入り、田植えの体験をしました。泥に足が埋まっていき、自由に動くことができない中、一生懸命苗を田んぼに植えていました。

子どもたちからは、「中西さんのお話を聞いて、お米を大切に食べるようにしましょう。」「泥に足が埋まってうまく田植えができなかった。お米作りの大変さを知ることができた。」などと感想を書いていました。

10月には稲刈りの体験もさせていただく予定になっています。子どもたちは「早く稲刈りがしたい」と言っていました。



↑

機械上も体験中(速い!)

みんなで並んで植えました

↓



## やさい名人さん(2年生)



2年生は、「種」から野菜を育てています。「苗」から育てるのと比べて、生長はゆっくりです。でも、あの小さな種から大きな実になるのを楽しみに世話をしています。植えている野菜は

「えだまめ」「おくら」「きゅうり」「なす」「ピーマン」「ミニトマト」です。子どもたちは「自分が好きだから。」「おじいちゃんの大こうぶつだから」

「ママが好きな野菜です。」などと、すてきな理由で野菜を選びました。

6月13日(木)に、昨年度からお世話になっている三浦農園の深見さんに来ていただき、泉州黄玉ねぎ収穫体験の感想を伝えたり、野菜を育てるコツについて教えてもらったりしました。お話の最後には水やり、肥料、日光、毎日様子を観察し愛情をもって育てることが大切だということを教えていただきました。

地域の方からたくさん学ばせていただいたことを、自分たちが育てている野菜のお世話にもいかして行ってほしいと思います。



## かんきょうび かかつどう 環境美化活動できれいに(全学年・PTA)



5月25日(土)に土曜授業の1時間めに全校児童と保護者の方で運動会に向けての環境美化活動を行いました。1・2年生は運動場の石拾いを、3・5年生は中庭、4年生

は校舎裏側、6年生は運動場全体の草引きをそれぞれ分かれて行いました。保護者の方は自分の子どもの学年の場所に入っていました。校舎裏などの陰になる部分は過ごしやすく作業もはかどりましたが、運動場は陰がなく夏の陽ざしの中での作業となりました。

そのような中、みなさんのがんばりがあり、たくさん的小石が集まり、雑草の入った袋の山が出来上がりしました。その後保護者の方と職員でみぞそうじ、ふだんご溝掃除をしました。普段子どもたちと溝掃除ではできない場所をしてもらうことで、校内の環境美化が進みました。暑い中の作業となりましたが、協力していただいた保護者の皆さまに感謝申し上げます



# 運動会特集

## うちゅうたんけん 宇宙探検レッツゴー



1年生にとって初めての運動会でした。少しの緊張が見えるものの今から始まる運動会にワクワクしている気持ちが開会式の様子から見てとれました。

「ぴっかぴか玉入れ」では自分の身長よりもはるかに高いかごめがけて一斉に投げ出したかと思えば、途中からダンスが始まり、一度は聞いたことのあるあのフレーズで最高の決めポーズ。勝敗など関係ない笑顔が届けられました。

2年生の「力を合わせて（大玉ころがし）」では子ども2人がすっぽり入るほどの大きさの大玉を転がしました。とにかく急いで転がしているのであらぬ方向に転がっていても前が見えないため気づかなかったり、Uターンするはずのコーンをオーバーランしてしまったりとハラハラさせてくれるレース展開でした。それでも2人で協力して次へつなげていく姿に1年間の成長を感じました。



そして、「宇宙探検レッツゴー」では元気なダンスを披露してくれました。ペットボトルに金銀のテープを貼り、カラフルなスズランテープを底の部分につけたキラキラポンポンを持って両サイドから入場してきました。低学年ならではの尻をふりふりする振り付けには「めっちゃかわいい！」と観覧席から声が上がっていました。また、グループでつくったトンネルをくぐって、探検するような表現やウェーブで大きくジャンプをして宇宙遊泳をしているような表現がダンスにも盛り込まれていました。最後は全員集合で満面の笑顔を見せてくれました。



## さいこうとうたつてん 最高到達点～わたしたちのStaRt～



3年生は「長坂タイフーン2024」で、ながさかっ子旋風を運動場いっぱい吹かせました。4人で1本の棒を持ち途中のコーンをぐるりと一周、スピードを落とさないように、誰も手を離さないように加減が難しい競技でしたが、中心になる子がしっかり支点となって回っていました。その後仲間の足元と頭上を通過し次のチームへ。学級の中で一緒にやろうという気持ちが見えるレースでした。

4年生は「いち・に！いち・に！」で息の合った二人三脚をがんばりました。とあるペアは2人がシンクロし、普段と同じくらいの走るスピードを披露し観覧席を沸かせていました。途中、お互いの足を縛っているバンドが外れてしまい、うまく走ることができないペアもありましたが、それでも落ち着いてお互い息を合わせなおして何とか次のペアにつなげている場面もあり、ながさかっ子の何事にもあきらめず最後までやり通す気持ちが垣間見えました。



「最高到達点～わたしたちのStaRt～」ではオリジナルうちわをもってダンスに挑みました。自分の名前の漢字1文字を書き入れたうちわに緑・赤・黄・青の生地を貼り風になびかせて入場しました。熱気あふれる運動場に涼やかな風を感じるそんな入場

でしたがダンスが始まると一転、軽快な音楽に軽やかなステップでみている人を虜にしていました。小グループでの移動では自分の番に回ってくるのをドキドキしながら待っているようでしたが、いざとなると決めポーズと笑顔が最高到達点へ達していました。2曲めはクラップから始まり、4色の布が空に舞う優雅なダンスもありました。フリーのパートでは思い思いの振り付けを見せてくれました。退場の際は4色が混じりながら走っていく姿があり、最後まで見に来てくれた方々を魅了していました。



## ながさか 長坂フラッグ&組体～心を一つに～奏

5年生は「引いて引いて引きまくれ！」という競技名にぴったりな競技内容になりました。1回戦、始まるとすぐにそれぞれ目標の棒へまっしぐらに走り寄り引き始めます。相手がいない場合は急いで自陣へ引き入れ、ほかの棒へと加勢しに行きます。すると最後の一本には全員が集まり、結果、赤組が引き入れました。2回戦でも同様なことが起こりましたが、白組もがんばり瀬戸際で阻止し



ました。勝敗はあるものの両組とも最後まで引きまくりました。

6年生は同じ引く競技でも「力と力のぶつかり合い！綱引き」で一致団結の場面を見せてくれました。第1回戦から持久力戦の勝負となりました。赤組が優勢に引くもそれに負けじと白組が耐えに耐え、一時は真中近くまで引き戻すも後半の赤組の底力で引き戻し長時間の戦いとなりました。結果、旗は倒れませんでした。赤組の優勢勝ちとなりました。続く2回戦も力と力の拮抗した引っぱり合いでしたが、1回戦の雪辱を果たすために白組が奮起し、見事白組が勝利しました。そして最終決戦の3回戦では、2回戦の勢いのまま白組が引き勝ちました。最後の最後まで気を抜けないめいしょうぶとなり、終わった後には両組ともさわやかな表情でした。

（あまりの熱戦に写真を撮るのを忘れてしまいました）

最後の団演「長坂フラッグ&組体～心を一つに～奏」では5、6年生が息を合わせて表現しました。まずは6年生の実行委員が全員の代表としてこの演技にける思いを表明し、その後4色の旗を持った子どもたちが入場してきました。音楽に合わせて大きく力強く振る度に聞こえる風の音。ピタッと止まった動きの中、運動場にたなびくフラッグ。「静」と「動」を使い分け順番に上げ下ろしされて作られるウェーブ。どれをとっても素晴らしい演技でした。また、組体操も披露し、扇やウェーブを完成させていきました。その中でも片手十字などの一人技を指の先まで集中しながらそろえてい



る場面では、一人技は全員で完成させる技であることを改めて感じさせられました。最後はグループごとに「ありがとうございました」と大きな声で感謝の意を伝え勇壮に走って退場しました。退場門をくぐった後は花道をつくり、お互いががんばってきた仲間を称賛しあっていました。5年生には来年への思いが、6年生には最高学年としての誇りが心の中に刻まれる瞬間だったのではないのでしょうか。

